

平成23年4月1日

堺市博物館資料収集基本方針

堺市博物館

はじめに

堺市博物館は、市制90周年の記念事業として昭和55年に開館し、大阪南部の中核的な博物館としての役割を期待されるなか、開館当初より収集資料の充実につとめてきた。

しかしながら、開館30年を経過した今日、博物館をとりまく諸情勢・環境は大きく変化している。堺市博物館の4つの基本的性格として、開館当初に定めた「市民の文化の広場」「市民の学習の場」「市民の文化遺産の庫」「都市文化研究の核」の趣旨を生かしつつ、対象や方法を明確にした基本方針に基づいた資料収集を進めていく。

1 収集対象

(1) 堺を中心とする地域・郷土資料

①. 歴史に関する資料

- 1) 古代からの寺社の歴史に関する資料
- 2) 中世の代表的武将・公家、および文化史に関する資料
- 3) 海外交流史に関する資料
- 4) 近世の政治・社会・交通に関する資料
- 5) 学術・宗教に関する資料
- 6) 各時代の古文書・古書籍

②. 美術・芸術に関する資料

- 1) 土佐派や堺・和泉の文人などの絵画と関連資料
- 2) 南蛮美術などの海外交流に関する資料
- 3) 茶道、および歌道・香道・能狂言などに関する資料
- 4) 湊焼・堺更紗などの工芸資料
- 5) 諸社寺の美術工芸品と信仰に関する資料
- 6) 和歌など文芸・学芸に関する資料
- 7) 書跡・墨跡資料
- 8) 内外の美術的名品・コレクション資料

③. 考古に関する資料

- 1) 旧石器から古墳時代にいたる生活・生産・信仰などに関する資料
- 2) 古代から中近世にいたる生活・生産・交易・信仰などに関する資料

④. 民俗に関する資料

- 1) 衣食住・生業に関する資料
- 2) 諸職・通信運搬に関する資料
- 3) 祭礼・信仰・行事に関する資料
- 4) 娯楽・遊戯・玩具に関する資料
- 5) 民俗芸能に関する資料

⑤. 産業に関する資料

- 1) 各時代における産業に関する資料
- 2) 伝統産業に関する道具・技術等に関する資料

(2)．堺に関する重点資料

①．百舌鳥古墳群、および堺の出土品に関する資料

- 1) 百舌鳥古墳群からの出土・伝世資料
- 2) 堺地域、および関係する遺跡からの出土品

ただし、現在の遺跡からの出土品は購入対象とならないため、関連する複製品等を製作する。

②．堺を中心とする都市文化に関する資料

- 1) 自由都市、国際都市等の中世都市に関する資料
- 2) 近世の都市生活、都市文化等に関する資料
- 3) 京・大坂・博多・リスボン・ベネチア等の世界の都市に関する資料
- 4) 近代都市に関する多様な資料

③．近代の堺に関する資料

- 1) 大浜・浜寺等の近代リゾートに関する資料
- 2) 近代の産業・文化・行政などに関する資料

④．堺ゆかりの人物に関する資料

- 1) 産業・文化・政治などに関する人物資料
- 2) 商人に関する資料
- 3) 文学・芸術・宗教などに関する人物資料

2．収集方法

(1)．調査研究にもとづいた資料収集

堺市博物館がめざす、子どもから高齢者までの利用者にとって、わかりやすく親しまれる博物館として成長していくためには、学芸員による調査研究活動のより一層の充実が欠かせない。とくに古墳、都市文化、近代堺の3分野について資料調査を進め、その成果を資料収集に反映させていく。

古墳については、百舌鳥古墳群の考古学的領域だけでなく多角的な調査研究も必要であり、平成11・12年度には各分野から古墳にアプローチする総合的なテーマ研究を試みた。これらの研究成果を、関連資料の収集と古墳展示の充実に結びつけていく。

都市文化については、堺が都市として発展しはじめた中世から、先進的な近代都市にいたる昭和時代までの、都市の変遷に関するテーマを中心に調査研究するもので、数回の特別展も実施しているが、それらの成果に基づき資料収集を行う。

近代の堺については、伝統産業から近代産業への転換と興隆、生活の変化、人物誌などの本格的な調査研究は、これから始めなければならない分野であり、平成6・7年度におこなった「近代史部門調査研究」を土台にして、資料収集に結びつけていく。

(2)．充実が必要な資料と収集課題

古墳関係では、百舌鳥古墳群を中心とする伝世品や関連資料は数が少ないため、複製品や模型展示が中心になっている。すでに仁徳陵出土埴輪、塚廻古墳出土鏡、七観古墳出土帯金具等の複製品があるが、百舌鳥古墳群の全体像をよりわかりやすくするために複製資料等の追加充実をはかる。

中近世を中心とする都市文化関係では、都市図・地誌・産業・町衆文化・教育・古文書等の関係資料が、欠落もしくは不足している。購入対象として市中に出回っている資料は少ないが、より一層の調査活動をおこない収集を行う。

近代の堺関係では、産業の発展や洋風化にともなう工業製品、生活用品や

アーバンリゾート関係等の多岐にわたる資料が予測されるが、研究の進んでいない分野が多く、泉北ニュータウン、臨海工業地帯に関する資料（基本図、住宅図、進行計画）などの現代史資料も含め、計画的な収集を行う。

(3)．常設展示のコーナー別重点資料

これまでの資料収集の成果をもとにして、常設展示の充実に結びつく資料を中心に、堺の誇る歴史や文化についてよりわかりやすく、説得力と集客魅力のある展示を実現するために、各時代、展示コーナー別に資料の収集を行う。

特に絵画・工芸等の美術資料の場合、常設展示であっても保存上1か月から2か月間での展示替えをおこなわなければならない、複数の展示資料の収集を行う。

常設展「堺ー仁徳陵と自由都市ー」は、古代の堺を代表する百舌鳥古墳群、中世以来の堺を最も特徴づけている都市文化に関する資料を中心とするものであるが、各時代をつうじて人々の生活をわかりやすく示すことのできる資料の収集を行う。とくに大浜リゾートや文芸人を輩出した近代の堺コーナーは、生活資料の多い時代でもあり、それらを充実する。

①．古墳コーナー

百舌鳥古墳群関係資料を充実する。展示のビジュアル化に向けて、展示複製品などを製作する。

②．中世・近世コーナー

中世から近世にかけての時代については、海外貿易、茶の湯をはじめとする芸術文化など、黄金の日々といわれる堺の繁栄ぶりをより身近に理解できるような資料を充実する。近世については、産業史資料や堺出身の土佐派絵画などを収集する。

③．近代コーナー

産業の近代化、アーバンリゾートに関する資料、堺出身の文芸人・学芸家に関する資料を充実する。

(4)．特別展・企画展用の資料収集

①．数年後に開催を計画している各特別展では、各地からの借用品の他に、所蔵資料の展示も欠かせない。そこで必要となる展示資料について、重点的に収集する。

②．年間数回を予定している企画展は、所蔵資料が中心の展示である。市民に常に親しんでもらい、集客力を高めるために、関係する資料の収集を行う。